

令和4年度全国学力・学習状況調査

各学校での分析と校内研修での活用について
【質問紙調査編】

熊本県教育委員会

1 各学校での分析と取組

(1) 分析の意義とポイント

(2) 分析の流れ

- ① 質問項目の洗い出し
- ② 結果の可視化
- ③ 分析と取組

2 実践編「校内研修での活用」

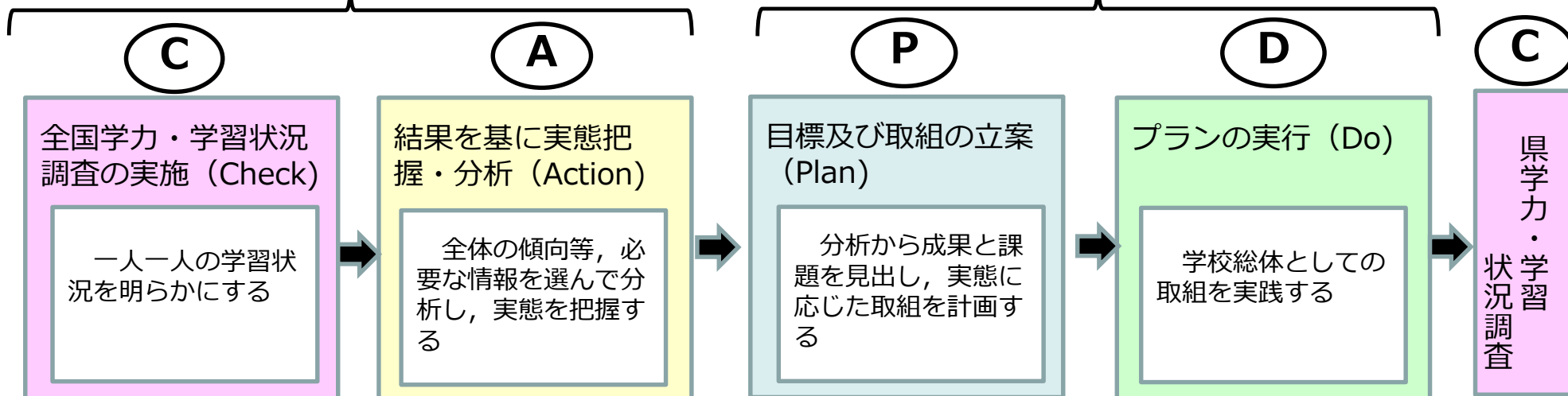
1 各学校での分析と取組

1 - (1) 分析の意義とポイント

<分析の意義>

◇学力、学習状況調査の結果から、
各学校の授業や学びの保障の
取組状況が把握できます

◇調査結果を分析し、共有すること
で、課題解決に向けた授業改
善が充実します



結果分析から、自校の「熊本の学び推進プラン」や「『熊本の学び』アクションプロジェクト」に関する取組の成果と課題を見付け、課題改善に向けた取組計画の立案と実践を行いましょ。

1 - (1) 分析の意義とポイント

<分析のポイント>

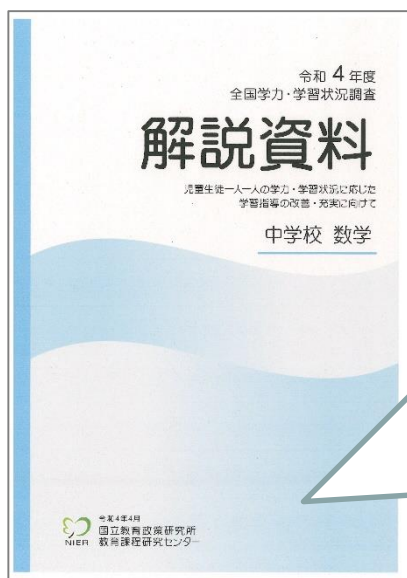
◇各学校での分析と校内研修での活用について

【教科に関する調査編】

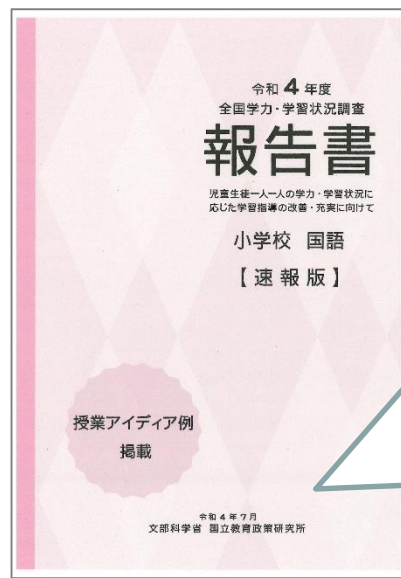
◇各学校での分析と校内研修での活用について

【質問紙調査編】

全国学力・学習状況調査の解説資料と報告書が分析と改善の拠り所となります。



調査終了後、速やかに学力や学習の状況、課題を把握し、学習指導の改善・充実等に取り組む際に参考となる資料



結果提供後、設問ごとの解答状況、成果や課題の有無、特徴的な解答の分析等、学習指導の改善・充実を図る際のポイントを示した資料

※ 質問紙においては、経年変化や学力とのクロス分析を掲載

◇各学校での質問紙調査の結果分析へ

【分析の流れ】

- ① 質問項目を洗い出す
- ② ①について、表やグラフで可視化する
- ③ 結果を分析し、課題改善の取組を考える

※ 「本校の重点取組(活用)シート」と併せて活用する。

※P7参照

まずは、課題改善に向けた重点取組と各学校で使用する重点取組（活用）シートを確認しましょう！



【次の検証(R4県学調・R5全学調)へ向けて、学校総体で重点的に取り組むこと】



[R4熊本県学力・学習状況調査及び R5全国学力・学習状況調査において検証]

【参考指標1】児童生徒質問紙
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

【参考指標2】児童生徒質問紙
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。

【参考指標3】児童生徒質問紙
家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていますか。



各教科の平均正答率

状況の向上を目指す

● 児童生徒を「学びの主体」とするための指導の充実

① 授業における主体的な学びを促す学習活動の充実

※単元全体を見通して、「自分で考える」「自分の考えを工夫して発表する」「自分の学びを振り返る」等の自ら取り組む学習場面を確実に設定する。

【参考】単元デザインの工夫(本渡中)、家庭学習と次時につなげる振り返り活動(渡小)【R3取組事例集第3章】

② 家庭学習における主体的な学びの充実

※児童生徒が計画的に家庭学習に取り組むことができるよう、丁寧な指導を行う。

【参考】スケジュール作成(御船中)【推進プランP93】、委員会活動による自学コンクール(小川中)【推進プランP94】



③ 定着確認の徹底

※単元(授業)ごとに最低限習得すべき事項が身に付いているか確認し、分かる喜びや達成感が実感できるよう、身に付くまで粘り強く指導する。

【参考】タブレットPCの活用(産山学園)【R3アクションプロジェクト取組事例集】、振り返りの視点の共有(緑東中)【R2取組事例集第3章】

● 各教科における課題の克服

① 課題である問題の確認とその克服

※(継続して)課題である問題の解答状況を把握し、本課が提供する「授業改善のポイント」、「類似問題」等を参考に、その克服を図る。

【参考】単元末における全学調等問題の活用、全学調等問題と類似した定期テスト問題の作成【県教育委員会HP】



【課題の改善に向けた今後のスケジュール(例)】

★各学校で、必ず取り組むもの(時期は各学校で設定)

8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
結果分析と取組の共有 →校内研修に位置付け(県教委HP掲載資料「校内研修シート」の活用等)	★(継続して)課題である問題の克服 →授業での確実な確認	★課題改善重点期間 →重点取組(上記)の確実な実践		県学調実施 →実施後、課題と思われる問題については即座に対応	結果分析と指標達成に向けた重点取組の改善 →同一集団の「伸び」や指標の達成状況の確認、結果分析を踏まえた重点取組の改善と確実な実践		★課題改善重点期間 →重点取組の確実な実践(フォローアッププリントの活用、R2・3全学調の課題改善状況の確認) →児童生徒自らの課題分析、課題克服のための取組の推進	全学調実施 ※参考指標における状況の向上 ※全教科で全国平均を上回る

本校の重点取組(活用)シート

課題改善重点期間(月 日 ~ 月 日)

●児童生徒を「学びの主体」とするための指導の充実

①授業における主体的な学びを促す学習活動の充実

※単元全体を見通して、「自分で考える」「自分の考えを工夫して発表する」「自分の学びを振り返る」等の自ら取り組む学習場面を確実に設定する。

P **D** <具体的取組(いつ・何を・どのように把握)>

②家庭学習における主体的な学びの充実

※児童生徒が計画的に家庭学習に取り組むことができるよう、丁寧な指導を行う。

P **D** <具体的取組(いつ・何を・どのように把握)>

③定着確認の徹底

※単元(授業)ごとに最低限習得すべき事項が身に付いているか確認し、分かる喜びや達成感が実感できるよう、身に付くまで粘り強く指導する。

P **D** <具体的取組(いつ・何を・どのように把握)>

●各教科における課題の克服

①課題である問題の確認とその克服

※(継続して)課題である問題の解答状況を把握し、本課が提供する「授業改善のポイント」、「類似問題」等を参考に、その克服を図る。

A <結果を基に実態把握・分析> **P** <目標及び取組の立案> **D** <プランの実行>

完了時期() → 完了時期() → 実行期間()



〔取組の検証〕

C 【参考指標1】児童生徒質問紙
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。
県・小学校:74.7%(全国差-2.6)
県・中学校:73.0%(全国差-6.2)
学校の現状() 結果
県学調目標値()→()

【参考指標2】児童生徒質問紙
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。
県・小学校:69.3%(全国差-1.8)
県・中学校:54.7%(全国差-3.8)
学校の現状() 結果
県学調目標値()→()

【参考指標3】児童生徒質問紙
家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていますか。
(そのままにしている割合)
県・小学校:15.5%(全国差+3.9)
県・中学校:14.6%(全国差+3.7)
学校の現状() 結果
県学調目標値()→()

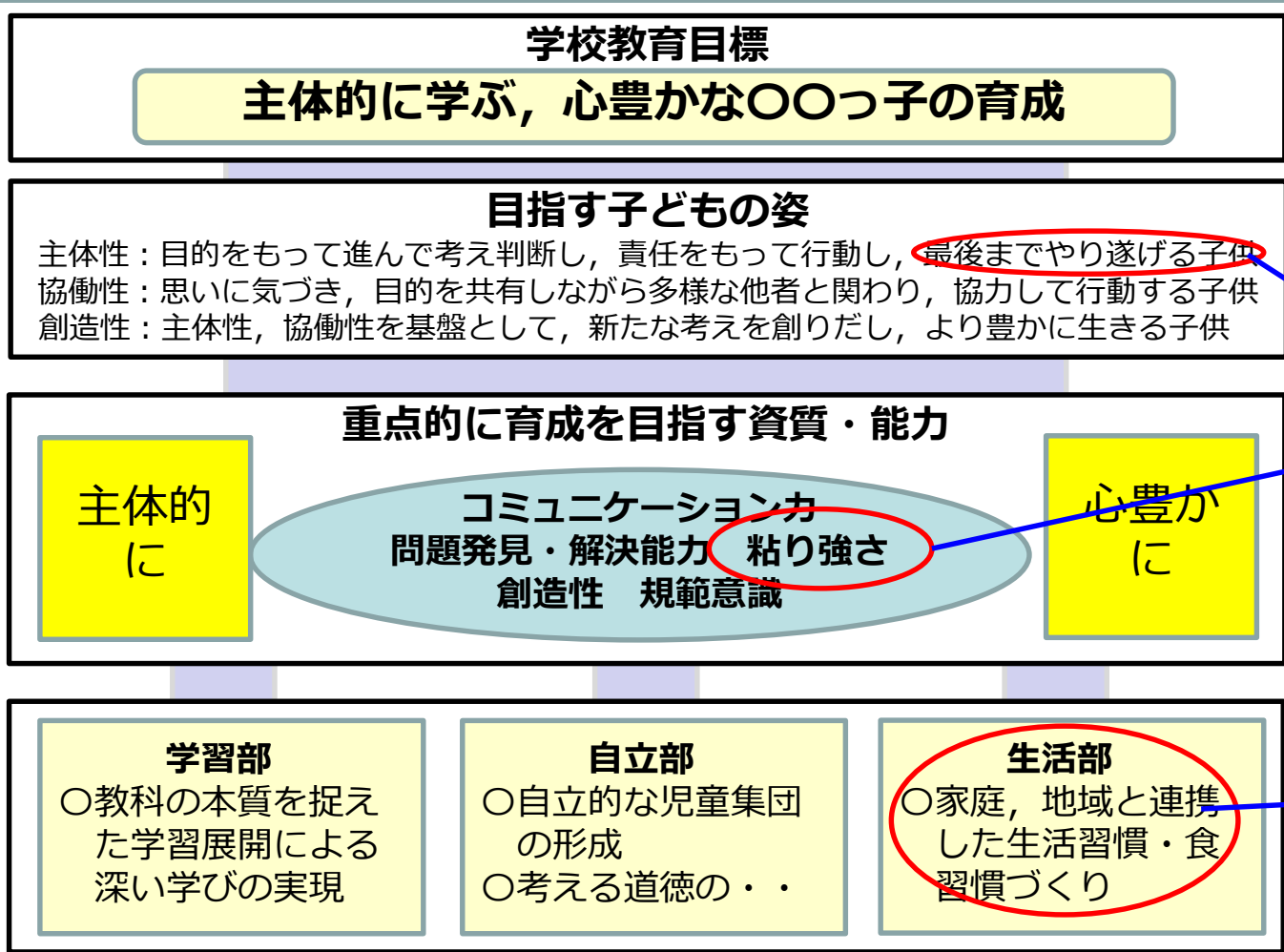
C 各教科の平均正答率
→前年度からの「伸び」

1 - (2) 分析の流れ①「質問項目の洗い出し」

① 学校教育目標, 育成を目指す資質・能力につながる質問項目を洗い出しましょう。

※学級経営, 校内研修等でも考えられます。

グランドデザインの一例 (一部分を抽出)



グランドデザインや経営案等を踏まえ, 質問項目を洗い出す。

(例) 児童生徒質問紙の問10「自分でやると決めたことは, やり遂げるようにしている」について, 回答割合や経年変化を見ていく。

(例) 学校質問紙の問75の回答割合から, コミュニティ・スクールの取組状況を分析していく。

1 - (2) 分析の流れ①「質問項目の洗い出し」

【児童生徒質問紙及び学校質問紙の主な項目】

項目	質問紙	調査対象	
		学年	ページ
1 基本的な生活習慣等	小学校調査	1～6	10～13
	中学校調査	1～6	84, 85
2 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等	小学校調査	7～18	14～18
	中学校調査	7～18	
3 学習習慣、学習環境等	小学校調査	19～26	20～24
	中学校調査	19～26	
4 地域や社会に関わる活動の状況等	小学校調査	27～31	25～27
	中学校調査	27～31	
5 ICTを活用した学習状況	小学校調査	32～37	28, 28
	中学校調査	32～37	
6 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	小学校調査	38～44	30～32
	中学校調査	38～44	
7 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳	小学校調査	45～48	33, 34
	中学校調査	45～48	
8 学習に対する興味・関心や授業の理解度等(国語)	小学校調査	49～52	35, 36
	中学校調査	49～52	
9 学習に対する興味・関心や授業の理解度等(算数・数学)	小学校調査	53～60	37～41
	中学校調査	53～60	
10 学習に対する興味・関心や授業の理解度等(理科)	小学校調査	61～69	42～44
	中学校調査	61～69	
11 各教科に関する調査の解答状況	小学校調査	国1、国2、算1、算2、理1、理2	45～47
	中学校調査	国1、国2、算1、算2、理1、理2	

報告書には、質問紙対応表があり、それぞれの質問がどういった項目に関する調査であるか、掲載ページとともに記載してあります。

R4年度児童生徒質問紙の主な項目

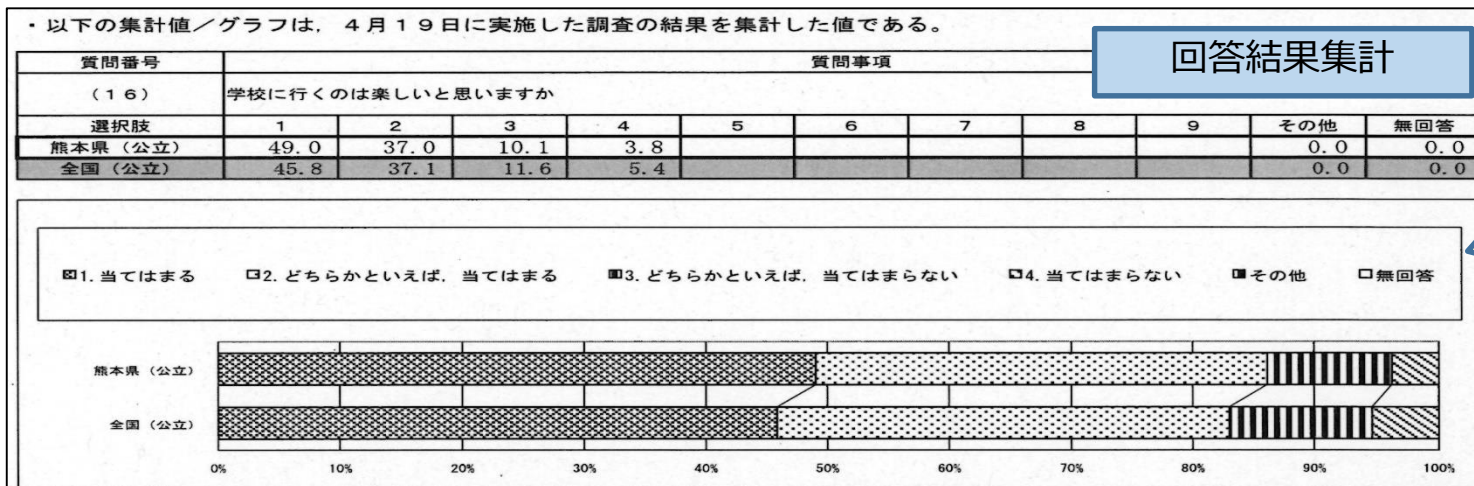
- 1 基本的な生活習慣等
- 2 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等
- 3 学習習慣、学習環境等
- 4 地域や社会に関わる活動の状況等
- 5 ICTを活用した学習状況
- 6 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- 7 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳
- 8 学習に関する興味・関心や授業の理解度等(国語)
- 9 学習に関する興味・関心や授業の理解度等(算数・数学)
- 10 学習に関する興味・関心や授業の理解度等(理科)
- 11 各教科に関する調査の解答状況

R4年度学校質問紙の主な項目

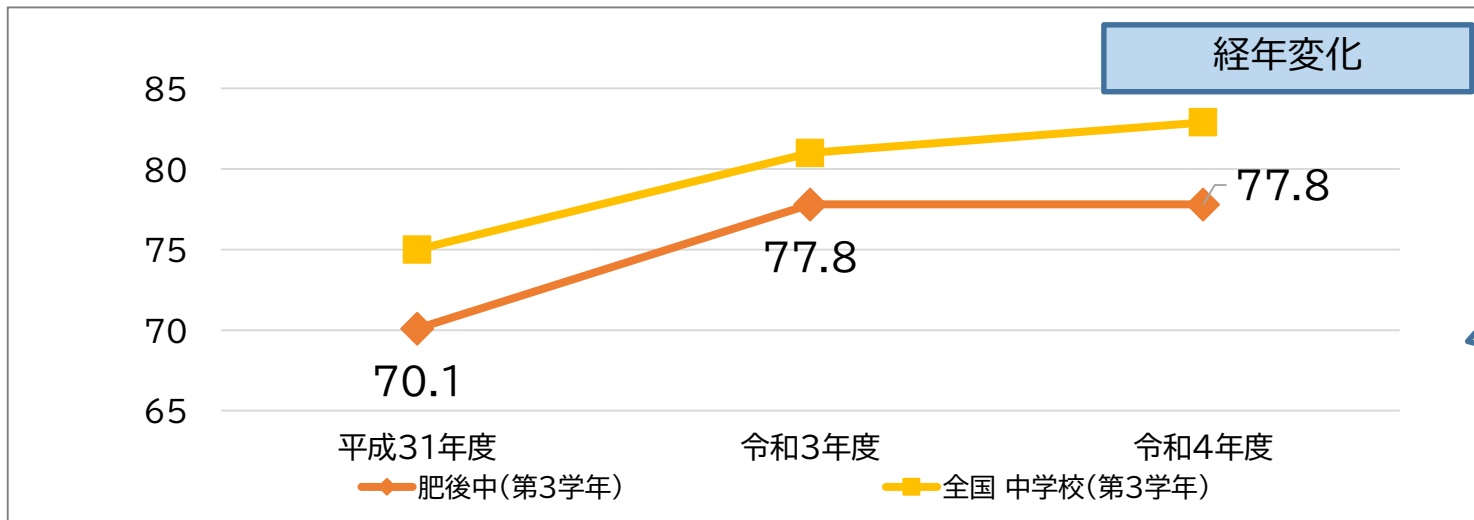
- 1 生徒指導等
- 2 学校運営に関する状況／教職員の資質向上に関する状況
- 3 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- 4 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳の指導方法
- 5 学習評価
- 6 国語科の指導方法
- 7 個に応じた指導
- 8 算数・数学科の指導方法
- 9 理科の指導方法
- 10 ICTを活用した学習状況
- 11 特別支援教育
- 12 小学校教育と中学校教育の連携
- 13 家庭や地域との連携等
- 14 家庭学習
- 15 全国学力・学習状況調査の結果の活用
- 16 新型コロナウイルス感染症の影響

1 - (2) 分析の流れ②「結果の可視化」

② 洗い出した質問項目について、表やグラフで可視化しましょう。



学校に提供されている、「回答結果集計」を活用する。

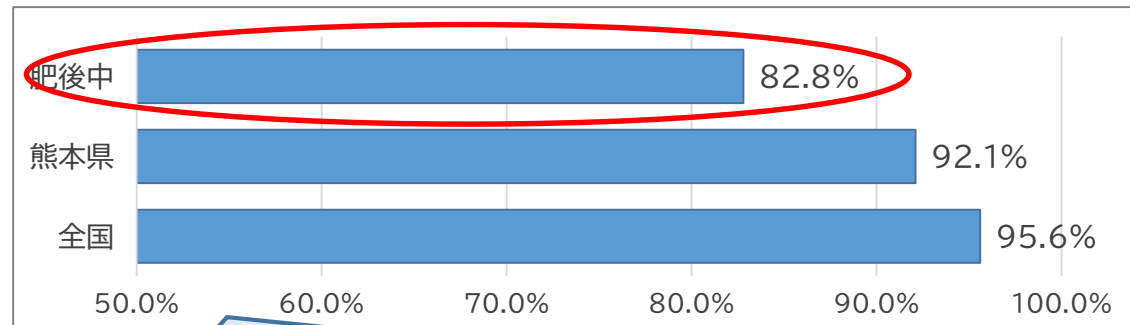


経年変化は折れ線グラフや棒グラフ等で可視化する。

1 - (2) 分析の流れ③「分析と取組」

③ 結果を分析し, 課題改善の取組を考えましょう。

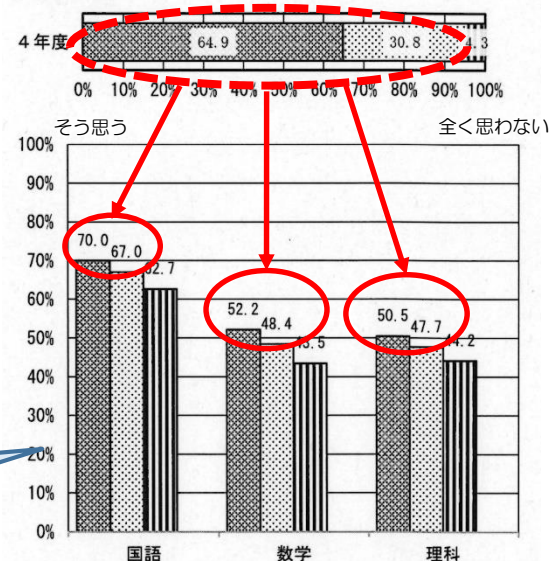
(例)「学校質問紙7 調査対象年学年の生徒は, 授業中の私語が少なく, 落ち着いていますか。」の結果



分析1: 肯定した生徒の割合を全国値, 県平均と比べると, 肥後中は低い傾向にある。

分析2: 国のクロス分析では, 肯定率が高い学校ほど, 教科の平均正答率が高い傾向にあることを確認する。

【中学校】



取組を考えるためのポイント

- これまでの取組を振り返り, 成果や課題を洗い出す。
- 授業, 行事, 児童会・生徒会等での子供の様子を共有する。
- 学校教育目標の実現や育成を目指す資質・能力に向け五者連携で取り組むことを考える。
- 「熊本の学び推進プラン」, 「熊本の学び」アクションプロジェクト, 「熊本の学び推進プラン」取組事例集等を参考にする。

2 実践編 「校内研修での活用」

◇これまでの分析の流れを基に、質問紙調査の分析について、校内研修を行いましょよう。

- ① 学校教育目標(学年・学級経営, 校内研修等)の実現につながる質問項目を洗い出す
- ② 洗い出した質問項目について, 表やグラフで可視化する
- ③ 結果を分析し, 課題改善の取組を考える

次のページからは、校内研修のシートを掲載しています。そのまま印刷して活用していただくこともできます。御活用ください。

校内研修シート① 「質問項目の洗い出し」

○学校教育目標，育成を目指す資質・能力等

実現に向けて，**児童生徒質問紙**から質問項目を洗い出しましょう。

実現に向けて，**学校質問紙**から質問項目を洗い出しましょう。

校内研修シート② 質問紙の結果分析

①質問項目

【問 】

②結果（表やグラフでの可視化）

③分析

④取組